

# 伊豆大島ジオパークをもっと楽しむ! ガイドツアーのススメ



どうして牛乳煎餅?

あんこさんって何?

なぜここに  
神社があるの?



なぜ山の上に  
黒い砂漠地帯が  
できたの?

なぜゴツゴツした  
溶岩の上に  
植物が生えているの?



ジオガイドは伊豆大島ジオパークで  
出会える景色や体験の奥にある  
「ふしぎ」を楽しく読み解くお手伝いをしています!

伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドが行うジオツアー 常時受付中!  
半日1名 ¥5,400 (2名様より催行) ※2018年11月現在  
【お問い合わせ】大島観光協会 (TEL: 04992-2-2177)



なるほど  
ナットク!

## 火山あつめました!

### 伊豆大島火山博物館

伊豆大島火山はもちろん、日本や世界の火山を紹介しています。伊豆大島ジオパークのヒミツと魅力が楽しめる大迫力の映像も上映中です。

開館/9:00~17:00、年中無休(年11日間の臨時休館日あり)  
料金/一般 500円、小中学生 250円



## 登る前に試してみよう!

### 三原山山頂ロジオパーク展

開館/土・日・祝 9:30~15:00  
外輪山展望台すぐそば  
「展望避難休憩舎」1階  
ガイドさん常駐!



## GEO FOOD

### くさや

クセになる旨みをもつ「くさや」は、極めて貴重であった塩と水を繰り返し使用するうちに生まれた発酵食品。離島の厳しい暮らしに根づく、まさにジオフードです。



### アシタバ

セリ科の植物。「摘んでも明日には新しい芽が出る」と言われるくらい強い生命力が特徴。野菜の栽培が難しかったこの島の風土に適して古くから自生し、島民にとって貴重な野菜でした。



### 牛乳

かつて大島は「ホルスタイン島」と呼ばれるくらい酪農が盛んな島でした。温暖な気候を好むホルスタイン種は、潮風を受けミネラル豊富な青草を食み、元気に育ちました。



## 伊豆大島ジオパークへのアクセス

### 船の旅を楽しむなら

東京・竹芝	最短1時間45分(高速ジェット船)	大島 元町港 or 岡田港
熱海港	最短6時間(大型客船・夜行の場合)	
熱海港	最短45分	

お問い合わせ・予約 東海汽船 (9:30~20:00)  
☎ 03-5472-9999

### 飛行機の旅を楽しむなら

調布飛行場	25分	大島空港
-------	-----	------

お問い合わせ・予約 新中央航空  
☎ 0422-31-4191

### 島内の交通手段・宿泊について

お問い合わせ/大島観光協会 (8:30~17:00)  
TEL: 04992-2-2177

検索 伊豆大島ナビ 島内交通

発行 伊豆大島ジオパーク推進委員会  
事務局/〒100-0101 東京都大島町元町1丁目1-14 大島町観光課ジオパーク推進係  
TEL: 04992-2-1446  
E-Mail: geopark@town.oshima.tokyo.jp  
(2018年11月版)



目からウロコの火山島!

# 伊豆大島 ジオパーク



秘密の人口みつけた!

海中溶岩、お魚園地!?



春夏秋冬、花のリレーを楽しんで♡



火山の島にはハートがいっぱい!

# 山頂エリア



真っ赤な渓谷

11

## 赤ダレ

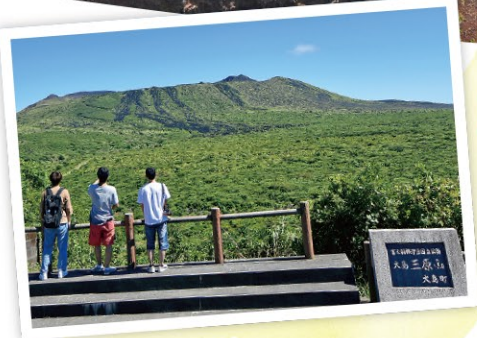
近くの火口から溶岩が降り積もった後、浸食されて赤い崖が現れました。谷の先に広がる海には伊豆諸島も望めます。

溶岩の粒や火山灰の黒い砂漠

9

## 裏砂漠

強い風が植物の種や芽生えを吹き飛ばし、この景色が保たれています。



## 1 お山にかかったチョコレート?

### 外輪山展望台

三原山の黒いスジは、1986年の噴火で火口からあふれ出た溶岩流の跡です。

## 2 溶岩だってシワがよる?

### 江戸時代の大噴火の跡

粘り気の少ない溶岩が流れ出て、このようなシワをつくることがあります。



## 3 ゴツゴツ溶岩

### 1986年噴火の溶岩流先端

火口からあふれ出た溶岩は山腹を下ってここで止まってくれました。



## 4 巨大なおはぎ?

### マグマのしぶきがくっついた岩

川を流れるイカダのように火口から溶岩流に乗って運ばれてきました。



地下のマグマで水が温められ、白い湯気が上がっています。



## 5 わずか一時間のパノラマウォーク!

### お鉢巡り

なんと360度の海、富士山、伊豆半島、伊豆諸島、房総半島、三浦半島が見えるんです!



## 6 壮大な穴はマグマの出口!

### 三原山中央火口

1986年噴火では、マグマがこの穴を満たしてあふれ出ました。



## 7 炎のカーテン! 割れ目噴火口

マグマが大地を割って、赤いしぶきを噴き上げました。



## 8 何に見えるかあなた次第

### 割れ目噴火の溶岩流

ふしぎな形の黒い岩がニョキニョキと並んでいます。



## 10 黒一色の大地が木漏れ日の森へ

### 植物の再生

厳しい環境に適応したパイオニア植物から命の再生が始まります。



## 木が生い茂っていく過程がわかる「植物遷移の道」

次第に草原となり、木が生え、森となる数百年間の物語をこの一本道でたどることができます。



伊豆大島は、「富士箱根伊豆国立公園」に指定されており、自然公園法で守られています。豊かな自然や希少な資源を大切にしながらお楽しみください。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平29情使、第419-GISMAP39996号)

## 伊豆大島のお花 Flower

5月にはオオシマトツジ、7月にはサクユリが見事な花を咲かせ、黒と緑の原野に彩りを添えます。



# 外周エリア

## 4 巨大バウムクーヘン 地層大切断面

約2万年間に起こった大噴火、約100回分の噴火の歴史です。



### 1 海に突き出た赤い丘 赤禿

燃えるような赤い溶岩と青い海とのコントラストが鮮やかです。

### 3 町に迫った溶岩流 元町溶岩・溶岩樹型

1986年、山腹の割れ目から溶岩流が木々を巻き込み元町に迫りました。



### 5 ふかふかのブラックビーチ 砂の浜

沢を流れて細くなった溶岩や火山灰が集まってできた黒い砂浜です。



### 6 座布団を敷いた石 トウシキのボムサッグ

激しい噴火で飛んできた岩が地面にめり込んで残りました。

### 2 火山でほっこり 元町浜の湯ほか

1986年の噴火によって、元町地区の地下水が温泉に変わりました。



### 7 火口が港に大変身! 波浮港

大津波で海とつながった火口湖を、平六さんたちが良港に整備しました。



### 8 火山は残った 筆島

古い火山が波に削られ、中心部にあった硬い岩が残りました。左手の崖に見える灰色のスジは、マグマが大地を割り入った跡(岩脈)です。



### 9 オオシマザクラは800歳!? 桜株

噴火を繰り返す島で生き抜いた桜の巨木は、かつて航海の目印でした。



伊豆大島をぐるっと一周!



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平29情使、第419-GISMAP39996号)

4月、火山の荒地でもたくましく生きるオオシマザクラが島の斜面を白く染め上げます。



# Flower

伊豆大島のお花

温暖多雨で水はけのよい土地を好み火山ガスにも強いヤブツバキは、縄文時代から島に自生していました。さらに島の人々は、防風林、炭、油などに利用するためツバキを植え、大切に育ててきました。



ヤブツバキ

島ならではの強い潮風にも負けない植物たちが年間を通じて海岸線を彩ります。



スガシユリ



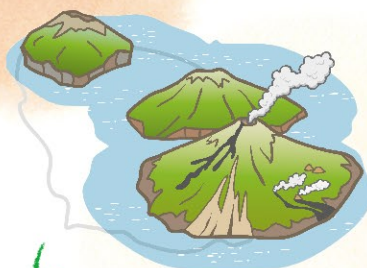
タイトゴメ

オオシマザクラ

# 伊豆大島ジオパークで 生きている地球を体感しよう！ VOLCANO

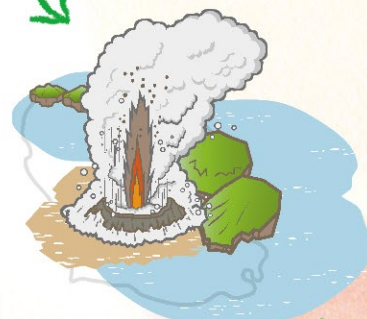


## 伊豆大島 誕生物語



伊豆大島の歴史は、  
海に並んだ古い火山の  
物語から始まります。

今から100万年から数10万年前のこと…  
このあたりには3つの火山がありました。



3つの火山はやがて活動を終え、  
波に削られ次第に  
小さくなっていきました。

そして数万年前、すぐ近くの海底  
で新たな噴火が始まりました。  
伊豆大島をつかった火山の誕生  
です。



新しい火山は何度も  
噴火を繰り返し、  
3つの古火山の残骸に  
覆いかぶさりました。

その後も噴火を続け、  
大きなひとつの火山島  
になりました。



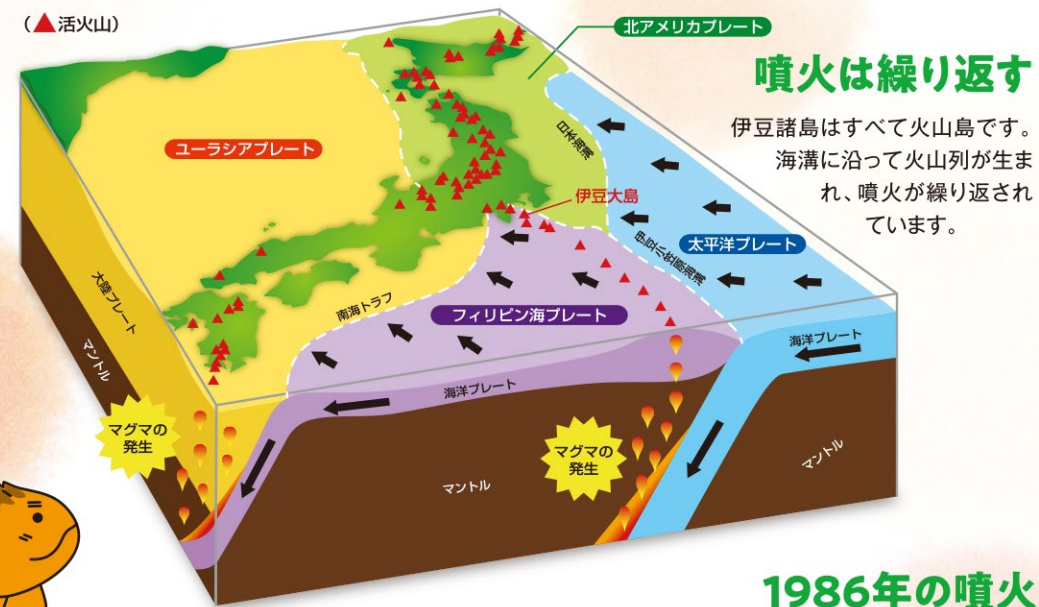
およそ1700年前、  
山頂で大規模な水蒸気  
噴火が起こりました。

大量の岩石や土砂が島を覆う  
ように流れ下り、山頂部が陥没  
してカルデラができました。



1777年からの大噴火では、  
カルデラの中に新たな山をつくりました。  
それが三原山です。

その後はカルデラの中で溶岩流を流す噴火を繰り返してきました。1986年に起こったカルデラの外での噴火は、およそ560年ぶりの出来事でした。



### 噴火は繰り返す

伊豆諸島はすべて火山島です。  
海溝に沿って火山列が生まれ、  
噴火が繰り返されています。

### 1986年の噴火



1986年  
11月15日  
山頂で噴火が  
始まりました。



1986年  
11月19日  
溶岩がカルデラへと  
あふれ出しました。



1986年  
11月21日  
カルデラの北部、続いて北西山腹で割れ目噴火が  
起こり、溶岩が沢を流れ下って民家まで約200mに  
迫りました。これがきっかけとなって、全島民が1か月  
間、島外で避難生活を送りました。

### 御神火と共にある島の暮らし

火山はときに災害をもたらす、平穏な日常を脅かすものではありませんが、噴火している一時を除けば、島民の暮らしに欠くことのできない恵みを与えてくれます。伊豆大島では古くから、噴き上がるマグマや赤く染まった空を「御神火(ごじんか)」と呼び、敬い慕ってきました。



#### 火山の見張り番 火山観測機器

伊豆大島では、国や大学などが、地震計、傾斜計、監視カメラなどの火山観測機器を100基以上設置し、気象庁が山の様子を24時間監視しています。もし火山に異常があれば防災行政無線でお知らせします。しかし、伊豆大島火山は活火山であり、突発的な現象には注意が必要です。火山活動の最新情報は以下の気象庁のホームページでご確認ください。

検索 [火山登山者向けの情報提供ページ](#)

### ジオパークで『地球(ジオ)と人をつながり』を楽しもう！

大地の成り立ちや特徴を知り、その地域だからこそ育まれた景色や生き物、人々の営みの歴史を読み解き、『地球(ジオ)と人とのつながり』を五感で楽しめる場所、それがジオパークです。私たちはこの島で皆さまと一緒に、目の前の風景の奥にある地球(ジオ)の物語を味わいたいと思っています！

